

## 会議録

会議の名称	令和7年度 第3回西東京市地域コミュニティあり方検討委員会
開催日時	令和7年10月20日（月曜日） 午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	田無庁舎3階 会議室
出席者	委員：渡邊委員長、小松真弓副委員長、小松哲郎委員、神崎委員、石井委員、菊池委員、菅原委員 事務局：河野課長、古川課長補佐、平沼主任、村田主事
議題	1 地域協力ネットワークのあり方について 2 地域コミュニティのあり方について 3 その他
会議資料	資料1 西東京市地域コミュニティあり方検討委員会について 資料2 地域協力ネットワーク令和6年度活動実績 資料3 地域コミュニティに関するアンケート結果@しもじゅく夏祭り 参考 地域協力ネットワーク令和6年度総会資料 参考 関係性リデザインからはじめる地域づくり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
【以下、渡邊委員長にて議事進行】	
1 開会	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局にて「令和7年度 第2回西東京市地域コミュニティあり方検討委員会（案）」を作成し配布。</li> <li>・委員より異論がなかったため、正式な会議録とすることで全会一致。</li> </ul>	
2 【議題】地域協力ネットワークのあり方について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局 資料1を用いて説明。</li> <li>○委員長 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の説明を受けて、ご意見をいただきたい。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校も働く人も住民も混ざっているコミュニティはなく、様々なきっかけにもなっていてすごいことだと思う。</li> <li>・行政が作りましょうと言って始まったものなので、行政にもっと動いてほしいという声も出てくるが、住民たちだけではここまで作り上げることは難しい。</li> <li>・自由な活動と事業が曖昧ということは、表裏一体なのでポジティブに捉えてよいのではないか。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型地域コミュニティのような様々な方が入っているコミュニティは、一市民としても心強い。</li> <li>・様々な方がいてつながり合っているということは知るべきであり、知っていただけたらよいと思った。</li> </ul> </li> <li>○委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の様々な地区分けとは関係ないエリア分けが斬新だと感じた。町名で区切っているのか。</li> </ul> </li> </ul>	

○事務局

- ・先行事例を研究し、検討したうえで日常生活圏域で区切っている。

○委員

- ・南部地域協力ネットワークに設立準備会から関わって、市が主導で始まったものだったので、最初は集められたという感覚があった。
- ・市は事務局というイメージだったので、市も同じ立場だということに驚いたが、市も自治会も事業者も同じ立場なのが良いところだと思う。
- ・市の方と接する機会がなかったので、人間味溢れる楽しい方々がいっぱいいて、住民のために様々なことを考えているということが分かるだけでもありがたかった。支えと声かけがあったからこそ続けて来られた。
- ・活動内容は、最初の頃は東日本大震災があったので防災関係が多かったが、現在は多岐に渡つていて、参加者が顔を合わせてつながり合っていくためにはどうしたらよいのか、誰かに引っかかるイベントが実施できるようを考えている。

○委員

- ・にしにしnet. を設立する際に、南部地域協力ネットワークを見学して方向性を決めていったが、南部地域協力ネットワークにはきっちりした組織という印象があったので、逆に縛られない自由な雰囲気のネットワークになっている。
- ・ゆるい雰囲気がありつつも、だらしなくなることはなく、この雰囲気がこれからも続いてほしいなと思う。
- ・住民だけで始めたネットワークだったらここまで行政と関わることはできなかっただし、行政と理解し合って運営している地域活動団体というのは少なく、良い関係を保てていると思う。
- ・課題としてはエリアが広いので、役員や会員、定例会に地域の偏りが出てしまっている。
- ・最終的な着地点はないと思うが、どこへ向かえば良いかの方向性が見えない。

○副委員長

- ・地域の人はそれぞれ多様なバックボーンを持っている方がいて、どんな人でも参画できるようなハードルの低いネットワークが作れたら良い。
- ・なるべく制限が少ない方が良いと思ってサポートてきて、そのおかげで多様な人が入っている。
- ・自治会や学校のイベントなどにお手伝いで入ったときに、活動と活動が繋がっていくコーディネート機能があると良いと思うし、地域協力ネットワークの役員が何かをしなくてはいけないのではなくて、市民が使いこなしてくれるような市民の道具になれば良いと思う。
- ・エリアが広いので、地域によって活動に差があることは感じている。
- ・第3次総合計画の中で学校を核としたまちづくりが挙げられていて、地域協力ネットワークとの関係性を整理することも必要だと思っている。

○事務局 資料1を用いて説明。

○委員長

- ・10年間地域協力ネットワークの活動を行い、良い意見がかなりある一方で、エリアが広いという課題もある。
- ・第3次基本計画において、中学校区を中心として進めていくという計画もある中で、地域協力ネットワークのエリアを見直す必要があるのか、ご意見をいただきたい。

○委員

- ・南部地域協力ネットワークは西武新宿線の南側が全て入っていて、広すぎることが課題になっている。
- ・中学校区域で分けると、9つに分けることとなり、それは狭すぎるのではないか。
- ・既存の地域協力ネットワークの中で中学校区域ごとにグループを作ったら良いのではないかという意見も出たことがあるが、さらに役割や会議を増やすことは負担になってしまふ。
- ・地域協力ネットワークで長年活動てきて、ゆるくやるのが大事で、同じ悩みを共有したり、ほっとできる場になったりしたら良いと思っているので、このエリア分けがベストなのではないかと思っている。

○委員

- ・にしにしnet. とほくっとネットは他と比べて縦に長く、縦を結ぶ沿線がないので、離れた地域の人が参加してくれず、こちらも手が届かず難しい。
- ・地域協力ネットワークの中で中学校区に分かれて活動するのも良いと思っている。

○委員

- ・ふれあいのまちづくりの20区分でもエリアが広いと感じる。
- ・町によって地域性がかなり違うため、現在は町によって地域blueによって月を分けて交流会を行う形で落ち着いている。
- ・エリアの広さの問題もあるが、中学校までは地元で通う児童が多く、親も地域のことを知っているので、中学校区での構想は良いと思う。

○委員

- ・地域に区切り線はないので、何で区切っても必ず境界線付近の方々が生まれてしまう。
- ・偏りなく行わなければならないと考えるとは思うが、しっかりエリアを分けたり、突き詰めたりせず、自分が行きやすいところへ行って活動しても良いのではないか。

○委員

- ・コロナ禍に転入してきたため、育成会のイベントも保護者会もなかつたため、地域活動に興味があるのに活動がなかつたために情報を逃してしまった層がいるのではないか。どうやつたらその層に伝えられるのか。
- ・職場と家の往復で過ごしている知人は、地域に関わることもなく、近隣のお店なども分からぬいと言つていて、そのような声もあるのかと思った。

○副委員長

- ・立場やそれぞれのエリア分けによって、やれることや担う役割が違う。
- ・地域協力ネットワークは立ち上げからゆるいつながりで活動してきたことで、様々な方が関わりやすくなつていて、4区域だからこそそれぞの立場で意見と解決策を出し合える。
- ・今の4区域より狭くしてしまうと、地域協力ネットワークの良さがなくなってしまうのではないか。

### 3 【議題】地域コミュニティのあり方について

○事務局

- ・資料1を用いて説明。

○委員長

- ・事務局の説明を受けて、ご意見をいただきたい。

○委員

- ・これまでの話を聞いて、「ゆるく」というキーワードが印象的であった。
- ・これまでの活動の苦労を経たからこそ「ゆるく」なのだと思う。
- ・CCCの活動でも、気軽に関わることや約束に縛られないことがありがたいという声が多く、そうしたゆるやかな関係性を大事にしていきたい。
- ・地域の悩みは見えにくい部分が多く、オンラインなどで意見交換できる場があるとハードルが下がるのではないか。

○委員

- ・南部地域協力ネットワークは自治会や町内会が多い地域で最初に立ち上がったが、実際は自治会が疲弊しており、担い手不足が課題である。
- ・地域協力ネットワークがあれば、自治会同士がつながり、他の取組を参考にできる場になると思う。
- ・前の自治会長の動きを知る機会にもなり、自治会の引き継ぎを支える役割も果たしていきたい。

○委員

- ・地域協力ネットワークの役割は、地域課題の解決という意識を持っていたが、実際にはそこまでの力も役割もないと思う。
- ・定例会後の名刺交換や立ち話のように、つながりが自然に生まれるきっかけの場であれば良いと思う。
- ・地域協力ネットワークは地域課題を解決するのではなく、繋ぐ役割でいい。

○委員

- ・地域協力ネットワークの間口が広く、継続していることがあまり知られていない。
- ・広報や告知が足りていないと感じる。
- ・若い人が関わると注目されすぎたり、すぐに役割を振られたりすることがある。
- ・本人の自主性が出てきたときに任せるくらいの余裕が必要であり、期待をかけすぎず、成長を待つ姿勢が大事である。

○委員

- ・地域協力ネットワークには、個人で参加しても団体の報告が中心になり居場所がないと感じることがある。
- ・個人でも参加できることをもっと発信し、団体中心の構造を変えていくことが課題である。

○委員

- ・自身は個人参加で、もともとはPTA活動を通じて地域に関わるようになった。
- ・子どもが学校を卒業すると地域との関係が途絶えてしまうが、そうした人が戻れる居場所として地域協力ネットワークがあると良い。

○委員

- ・以前は困りごとを聞く活動をしていたが、今は楽しいということやおいしいということを大事に活動している。
- ・「おいしい」というのは人を惹きつけ、強制せず、気軽に集まれる場が人をつなぐ。
- ・歩いて行ける範囲にそうした場が複数あると良い。
- ・地域ネットワークがそれらの連絡会のような役割を果たせばうれしい。

○副委員長

- ・前の話は、小さな単位でもコミュニティ施策の4つの視点を実践している例だと思う。
- ・各地域協力ネットワークの知見や知識を集約し、共有するキュレーションのような仕組みがあっても良い。

○委員長

- ・告知が足りていないという意見があったが、どのような方法が効果的か。

○委員

- ・南部地域協力ネットワークでは高齢者が多く、メールやSNSが使えない方もいるため、チラシ・電話・手紙など多様な手段を使って案内している。
- ・定例会に来てもらうためには、相手に合わせた案内が必要である。
- ・報告形式の会議では人が集まらないため、ワークショップ形式に変えたら発言が増え、参加率も上がった。

○委員

- ・コロナ禍でリアルな活動が難しかった時期、4地域協力ネットワークをつないでいたのがラジオ番組「こみゅラジ」だと思う。ゲスト出演を通じて、新しいつながりが生まれ、地域協力ネットワーク間の交流にもつながった。
- ・ラジオのリスナー数は少なくとも、話し合いの過程が大きな意義になっているので、今後も続けていきたい。

#### 4 【議題】その他

○事務局

- ・次回に向け、報告書のまとめ方について意見を伺いたい。
- ・これまでの議論をもとに4つの視点に整理し、素案を作成する予定である。

○委員

- ・どこで絞り込むかがポイント。ガイドブック的な形にするのが良いのではないか。
- ・紙だけでなくデジタル形式（データ）も必須だと思う。

○副委員長

- ・市が作るものとして、しっかりした内容の報告書がいい。
- ・一方で、子どもも読めるような工夫があると親しみやすい。

○委員

- ・誰に向けて作るのかを明確にすべき。
- ・活動写真なども入れ、文字ばかりにならないようにすると良いのではないか。
- ・市の基本方針として政策を示しつつ、市民が参加してみたいと思える内容を盛り込みたい。
- ・この委員会では、報告書をまとめ上げ、その後新しい地域コミュニティ基本方針づくりにつなげていく。

○事務局

- ・次回は12月23日開催予定。

閉会